

第 42 回探鉱新技術分科会が以下の要領で開催されましたので、報告します。

記

第 42 回探鉱新技術分科会

日時：平成 24 年 11 月 26 日（月）15:00～17:40

場所：電力中央研究所（我孫子地区） 南研究棟 別館 1 階 A 会議室

出席者：

（分科会委員）早稲田、森田、金子、野口、岡本、佐藤、奥村、荒木、樋口 以上 9 名

（オブザーバー）中川 加明一郎（電中研）、鈴木 祐一郎・徳橋秀一・佐脇貴幸（産総研）、下村 章
（ICEP）、藤原昌史・白木正弘（三井石油開発） 以上 7 名

（講演者）大隅 多加志 氏（電中研）、加藤 進 氏（地科研） 以上 2 名

（研究設備見学 案内者）中田英二氏・末永 弘氏・伊藤由紀氏（電中研） 以上 3 名

計 21 名

議事

(1) 分科会委員、活動内容の確認

現在の委員名簿を確認した。次回の予定（京都大学での開催案）を紹介した。

(2) 話題提供

話題 1：二酸化炭素水和物の海底下埋設

講師：電力中央研究所 大隅 多加志 氏

要旨：貯留すべき二酸化炭素のすべての量を発生源において水和物の化学形とし、さらに溶解を極小化するための泥質層を表面に作り込んでから、水和物が安定な海底（水温 10°C 以下水深 430m 以深）に静置する場合には、二酸化炭素地中貯留に伴うサイト選定や長期的なリスク管理の困難を回避可能である。

話題 2：沖縄の水溶性天然ガス

講師：(株)地球科学総合研究所 加藤 進 氏

要旨：主に沖縄本島南部における水溶性天然ガスの探鉱経緯と石油地質について概説した。2つのタイプの水溶性天然ガスが存在するのが本地域の特徴である。すなわち、1) 島尻層群豊見城層（上部中新統）の砂岩層を貯留層とする微生物起源ガスと、2) 基盤岩（島尻層群基底の砂礫岩を含む）を貯留層とする熱分解ガスである。平成 22 年度の補正予算で実施された陸上地震探鉱（沖縄中南部：7 測線，約 150km；宮古島：9 測線，約 100km）の成果についても言及した。

(3) 電力中央研究所 地圏科学領域の研究設備見学

ガスクロ同位体質量分析計：中田英二氏

二層流実験装置：末永 弘 氏

ヘリウム同位体質量分析計：伊藤由紀 氏

以上

座長：早稲田（石油資源開発）、森田（産総研）